

行政視察報告書

委員会名	教育民生委員会
派遣委員	委員長 川辺 隆 副委員長 匹田 久美子 委員 吉岡 勲 委員 河野 巧 委員 安東 鉄男 委員 甲斐 尊
日 程	令和5年10月17日（火）
視 察 先	岡山県奈義町
調査項目	出生率が増加した背景について

1. 調査目的

奈義町は、平成24年に「子育てするなら奈義町で」というキャッチフレーズのもと、「奈義町子育て応援宣言」を行い妊娠出産期から切れ目ない支援を行っています。その結果、平成26年の合計特殊出生率が日本トップの2.81となり、一時は1.85まで下がりましたが、令和元年には、2.95まで回復し注目を集めています。白杵市でも独自の子育て支援策や定住の施策などを行っていますが、奈義町では町民が総ぐるみで子育て支援を行い、地域のニーズを住民参加型の施策に反映し住民意識を高めながら支援策の拡充を図ることから、今後の白杵市の出生率増加に生かせるよう奈義町の取組について調査・研究を行いました。

2. 調査内容

(1) 視察先の概要

奈義町は岡山県の北東部、中国山地の秀峰「那岐山」の南麓に位置し、那岐山麓の四季折々の自然に恵まれた町です。主な産業は、農業、畜産、林業です。平成の大合併の際、住民投票を行い生まれ育った町を残したいという住民の思いから単独町政を選択しました。しかし、同時にこのままでは生まれ育った町がなくなるのではないかという危機感を抱き、最後まで安心して暮らしたいという町民の思いを実現するため、若い人がいてはじめて高齢者の支援ができるという考えのもと、「少子化対策は最大の高齢者福祉」を合言葉に、平成24年に奈義町子育て応援宣言をしました。人口は6,147人、世帯数は2,410世帯となっており、2012年の子育て応援宣言から11年、これまで町民と一緒に歩んできた地域ぐるみで子どもの成長を支える取組みや、町独自の手厚い子育て支援策、そして2019年の合計特殊出生率2.95（同年の全国平均1.36）などが注目され、「奇跡のまち」と呼ばれ子育て支援において有名な町となりました。そして、日本経済新聞とテレビ東京系列5局で制作するLBS（ローカルビジネスサテライト）で紹介されました。

(2) 調査結果

家庭で育児をする保護者に対し、生後7ヵ月から4歳までの子ども一人につき毎月15,

000円を支給していました。奈義町では3人から4人子どもがいる家庭が大半を占めており、国による児童手当等を加味すれば保護者が育児に専念しても一定程度の収入が保証されていました。

そして、おむつのサブスクを導入しており、登園中に利用する子どものおむつを定額で提供し、保護者はおむつやおしりふきの持参が不要となり、保護者の負担軽減と保育現場の業務効率化につながっていました。導入に合わせて、「災害時における救援物資の提供等に関する協定」をサービス提供会社と締結し、サブスクを通じて保育園の在庫のおむつを、災害時に奈義町内で無償配布するとともに、災害時においても保育施設に製品の補充等が行える体制を同社が整えるもので、おむつ救援物資に係る協定は全国ではじめての取組になるとのことでした。

さらに、オール電化や浴室乾燥など子育て世代の声に対応した賃貸住宅や分譲住宅、賃貸住宅不足を解消するため町で民間賃貸住宅の建設を造成するなど住宅整備も行っていました。

また、しごとコンビニ事業として、子育てをしながら空いた時間に働きたい方や、シニア世代の空き時間を活用するなど短時間でも働くことができ、時間に縛られず気軽に働くことができる環境が整っていました。

町長自らが「子育ての町」と宣言をすることで、地域や子育て世代のニーズを拾い上げ、住民総ぐるみで子育て支援を行うという好循環が生まれていました。

3. 委員会の所感

人口減少が進む中、行政が打ち出した少子化対策を行政と町民が一体となって推進したことで、町の発信力、町民の意識の高まりが非常に大きな力になったのだと感じました。そして、人口規模6,000人程度の町であり、中心部から半径2km以内に人口の8割が定住する、コンパクトシティだからこその内容の施策も多いのではないかと感じました。

また、子育てをしている保護者のインタビューを拝見し、他の市町村では子どもが1~2人の家庭が多く、4人以上の子どもがいると、子どもが多いことが目立ち出産することに対して抵抗を感じていたが、奈義町では3~4人の子どもがいる家庭が当たり前で、安心して出産・育児をすることができた。子どもが多いことが「当たり前」ということに安心した。とお話をされており、町民が子育てへの「安心感」を持つことは、町の施策が効果的であった結果であり、町長の牽引力と職員の頑張り、住民の思いに支えられていると感じました。

白杵市においても、子育て支援や移住施策など力を入れて取組を行っていますが、「子育ての町」など印象に残るキャッチフレーズを掲げることで、白杵市が取組んでいる施策について市内外に、さらに広く周知できるのではないかと思います。

4. 視察状況

